

2022 年度 第 2 回若手研究部会 研究活動成果報告書

研究部会名称：豊岡復興共同建築群と地域の 100 年 若手研究部会

主査：(氏名) 司馬麻未

(所属) 関西学院大学建築学部契約助手

【研究の背景と目的】

本若手研究部会は、大正 14 (1925) 年に発生した北但馬地震による北但大震災で火災によって多くの家屋が焼失した、豊岡 (旧・豊岡町)、城崎 (旧・城崎町)、津居山 (旧・港村)、飯谷 (旧・内川村) の 4 地区を対象として、災害以前・以後、そして災害から 100 年を迎える現在に至るまで、4 地区がどのように異なる地域空間形成の過程をたどったのかを明らかにすることを目的として研究を行っている。

【研究方法】

2022 年度は、①豊岡市歴史博物館所蔵の資料調査と、②城崎を除いた 3 地区のヒアリング調査・現地調査、③豊岡復興建築 (4 軒) の実測調査を行った。調査概要は以下の通りである。

- ① 豊岡市歴史博物館所蔵の資料を整理・分析を 2022 年 5～7 月に実施した。豊岡の復興計画を描いた都市計画図を発見し、現状の市街地と比較することで、復興計画がどの点で実現し、どの点が未達成であったのかを分析した。
- ② 豊岡 (旧豊岡町)、津居山 (旧港村)、飯谷 (旧内川村) の 3 地区での現地調査及びヒアリング調査を 2022 年 5 月 6 日、7 月 28、29 日、8 月 31 日～9 月 2 日、12 月 6、7 日に実施した。北但大震災以前・以後そして現在へと生活空間や暮らし方がどのような変遷をたどってきたのか、各地区の地域空間形成を比較し共通性と差異を見出すため、3 地区の現地調査と 9 名へのヒアリング調査を行った。
- ③ 豊岡復興建築 (4 軒) の実測調査を 2022 年 9 月 1、2 日に実施した。豊岡市中心市街地に現存している復興建築は 35 軒確認されている。大開通りに面した奥行き 5m が連結された RC 造の 11 軒長屋のうち 4 軒の実測調査を行い、図面化した。

【研究成果】

3 地区での現地調査やヒアリング調査を通して、北但大震災以前・以後そして現在へと生活空間や暮らし方がどのような変遷をたどってきたのか、各地区の地域空間形成を比較し共通性と差異を見出すことができた。また住生活からの視点においても三者三様の地域空間形成が見られた。大規模な基盤整理事業などのハード面での災害復興だけでなく、災害の記憶や備えが各地区で暮らす人々の共同体の知恵として、100 年経とうとする今なお、生活空間や暮らしの中で垣間見ることができた。

【今後の予定】

2022 年度に行った調査報告を 4 本にまとめ、令和 5 年度 建築学会近畿支部研究発表会にて報告を行う。また 2023 年度では引き続き 3 地区の調査に加えて、城崎地区の現地調査およびヒアリング調査も行う予定である。